

夏-62号の「ポツンと一軒家」の続きです。

人々が都会に出てゆくのは、きっと都会には私たちを魅きつける宝があるのでしょう。しかし、田舎は自然たっぷり、人が集えば会話が生まれ理解が深まり笑顔も出ます。今は光回線も行き渡っていて、世界の人々と安全にいつでも繋がれます。私たちは都会には無いもっと価値のある宝に気づいていないように思います。

そして今のソーシャルディスタンスの渦中、我々の世代間にこそ多文化といえるほどの社会の断絶が出来てしまっているようにも思います。これを解く方法として外国の方々との交流を通じ、“あなたの国はどうか。もし同じような状況だったら共に課題を解決して行きましょう。”という相互計画を考えています。その候補として明るいらテンの国民性を持つ南欧（スペイン、フランス）を考えています。すべての人々が語り部になれる、地元の方々それぞれがその道の専門家 みんなが主役になれる地域創生です。人と人が出会うわけですから、どんな相乗効果が出てくるか、何が生まれるかはわかりません。でも、一つ言えることは全員が幸せな気持ちになれる、お互いに元気を貰えるという事、全員が楽しく参加して地元を盛り上げて、南欧と日本、お互いの地元の大切な宝を見つけ合い、豊かになるという楽しい地域おこしを考えています。

事務局長 また たかひろ 丸田 隆弘

鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター（KAPIC）より

所長 こじま もりゆき 児島 盛之

日本の故郷で生活を始めて3年が過ぎました。最近のロシア・ウクライナ情勢をみると、国際理解や国際協力といった親和的な言葉が色褪せてしまうような感覚を覚えます。これまでも国家間・民族間の紛争は世界のいたるところで存在していましたし、ウクライナ東部やクリミア半島に居住している「親ロシア派」住民の存在も気になります。彼らを放逐しても問題解決とはなりません。これまで漠然と『人種や民族、国の違いを超えてみんな仲良く暮らせればいい』という理想を抱いていましたが、それが実現する日は来ないのかも知れません。とは言え、希望は捨てたくありませんので、自分の身近から、自分のできることで改善する努力を続けたいと思います。



皆さんこんにちは、カピックセンターで3年目になりました
まえはら むりょう
前原 無量 と申します。2015年～2017年の2年間、青年海外協力隊（現、JICA海外協力隊）の環境教育隊員としてスリランカの市役所の廃棄物管理支援を行っていました。当センターでは主に国際交流事業（海外学生日本語・日本文化研修、鹿児島県技術研修員基礎研修、ALT研修）などを担当しています。最近は、日本の学校と世界の学校をオンラインでつないで交流を企画したり、日本の学校に出前授業に何わせて頂いたりもしております。モットーは「なせば成る、なさねば成らぬ」です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



KAPICより ～続き～



こんにちは！私が協力隊に初めて興味を持ったのは東京での百貨店勤務時代に同じ部署の方が、仕事を辞めて協力隊に参加したことがきっかけでした。それからだいぶ後になりましたが、縁あってブラジルの方へ派遣させて頂き日系日本語学校教師としてブラジルの日系人の子弟達に日本語や日本文化を教えました。中でも教え子たちと1年かけて取り組んだミュージカル発表を通して大きな絆を築けたことは自身の人生の中の集大成の一つです。このかけがえのない経験と協力隊事業のすばらしさを多くの方々に伝えられたらと思っています。現在は総務課長兼日本語講師として勤務させて頂いておりますが、SDGs周知のためのプログラムやアクティビティの実施にも取り組んでおります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

しもまつ ひろかず (日系社会青年ボランティア
下松 裕和 26回生 (2010年0次隊)



ともおか えりか

友岡 恵理香

主に、国際理解プログラムの計画・実施と宿泊業務を担当しています。オーストラリアで日本語教師アシスタントを経験し、その後、教員や保育士等、子ども達に関わる仕事に就いてきました。数年前まで保育士をしていましたが、コロナ禍でタイに出会い、海外と繋がるお仕事に就きたいという思

いでカピックセンターに飛び込みました。子どもたち向けの英語イベント、一般の方々向けの異文化体験イベント等、鹿児島の方々が世界について考えること・体験することを楽しめるようなイベント企画も担当しています。世界が皆さんに近づくよう、日々楽しいことを探して仕事に励んでいます。

わたなべ ようこ

渡邊 洋子

みなさん、はじめまして。カピックで研修担当の渡邊 洋子です。JOCVでは、シリアのダマスカスとアレppoにて、日本語教師として3年半活動しました。シリアは老後に移住しようかと真剣に考えていたほど大好きな第二の故郷です。活動中、シリア人のホスピタリティーに心身ともに助けられました。任期終了後は、シリアと日本の架け橋になるべく、旅行会社で働きましたが、アラブの春以降、私の描いた架け橋となるミッションは遂行不可となりました。カピックでは、センターの内外で子どもたち高齢者の方などに協力隊体験談を話



すこと、料理教室やレストランでシリア料理を体験してもらうことなどで、そのミッションを異なる形でわずかずつ実行しています。カピックの活動をとおして、すべての人々に世界の「繋がり」を認識してもらうことを大切にしています。(平成11年度2次隊)



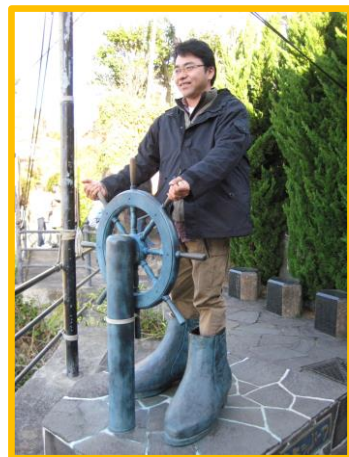
鹿児島県国際交流センター（IFCより）



くわやま まさひろ
所長 桑山 昌洋

2000年度3次隊ボツワナシステムエンジニアとして派遣されました。帰国後は会社員や大学教員などをしながら鹿児島県OB会にも顔を出し、会長も務めたおかげでNPO九州にもずいぶんとお世話になっていました。

令和2年4月より鹿児島県国際交流センター（International Friendship Center :IFC）の所長を務めています。当施設は留学生の宿泊施設ですが、学生の多くが一生懸命に勉強したりアルバイトしたりと、その多様性と力強さを毎日目にしながら、こちらにも個性と能力の多彩な職員の皆さんの力を借りて、より良い施設になるよう日々努力しています。私のモットーは“今日よりもよりよい明日を”で生きております。桜島に負けず、熱い鹿児島を目指します。



さかい
事業主任 酒井 マリ



私は2006年度から鹿児島県アジア太平洋農村研修センター（KAPIC）、2020年度から鹿児島県国際交流センター（IFC）で勤務しています。協力隊とシニア海外ボランティアとしてネパールでこの活動、また、協力隊短期派遣でブータンでもこの活動をしてきました。KAPICでもIFCでも鹿児島の人たちと外国人（研修員や留学生）が交流しながらお互いに学びあうための機会づくりに携わってきました。青少年の育成や多文化共生の地域づくりなども含め幅広い事業に取り組みました。この16年半、さまざまな出会いに恵まれ、多くを学ぶことができたことに感謝しています。今後は、これまでとは、違う形でNPO九州に関わることになる予定ですが、引き続きよろしくお願いたします。

8才の時にテレビで見た泥水をすするアフリカの子どもに衝撃を受け、それ以来、国際協力分野で働くことを目標に、様々な仕事やボランティア活動を経験してきました。現在、長年の目標が叶って、当センターにて勤務しています。センターには日本や鹿児島での生活に慣れない留学生や研究者が住んでいます。彼らが安心して快適に生活することが大事だと思っていますので、居住空間整備としてのハード面と日常生活サポートとしてのソフト面の両面を充実させるべく、職務をこなす日々です。私は、海外協力隊隊員として活動することも目標としており、今春から社会人大学生として勉強中の身でもあります(写真は大学講堂前で娘と共に)。学問を通し、見識を深め、その学びを職場へ還元しつつ、今後も当協会の一助となれるよう努めて参ります。

たはら ゆり
総務 田原 由里



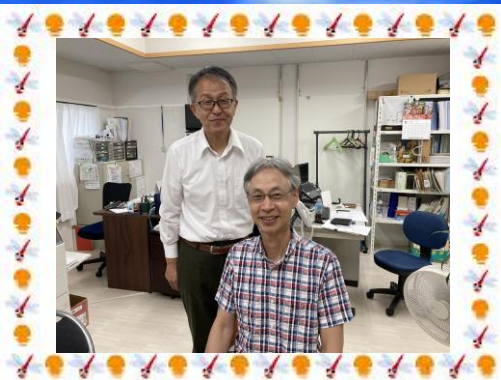
馬田前事務局長 当会事務所をご来訪！

馬田前事務局長がJICAボツワナ支所から休暇一時帰国中の9月5日に当会を訪問してくれました。ボツワナ国にもJICA海外協力

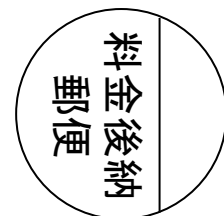


大切な事を
自然が教えて
くれる

隊員が以前のように戻りつつあり、多忙ながらも元気に仕事をしていますとおっしゃっていました。これから当会と連携したプログラムが生まれればと願っております。馬田さん引き続き九州から応援しております。



地元の宝
皆の思いを込め
しめ縄作り



特定非営利活動法人 九州海外協力協会
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304
E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



(特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動にご賛同いただける団体・個人の皆様を募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただいているほか、当協会主催・共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい！



都会の癒し！



福岡天神の交差点に立つお地藏様。8月24日の地藏盆でしっかりおめかしされていました。いつも私たちの安全を見守って頂きありがとうございます。
#天神地藏 #天神交差点



発行: 特定非営利活動法人 九州海外協力協会
〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503
TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304
HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp

